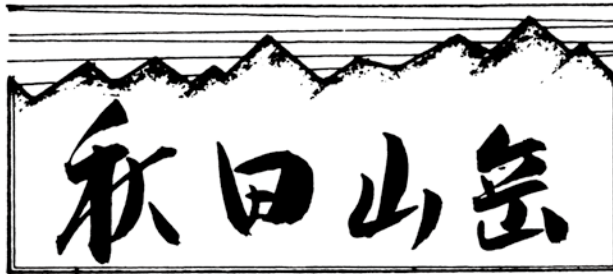


2019



令和元年9月 発行

No. 113

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部  
編集 鈴木裕子

## ● ● ● 支部設立 60 周年記念山行・太平山 ● ● ●

### 集中登山を実施 支部長 鈴木裕子

秋田支部のこれまでの周年記念山行は、県外や海外登山を実施してきたが、六十周年は地元「おらほの山・太平山」に決定した。

昨年、秋田支部も参加した「山の環境整備県民共同事業」で中岳に新たに標柱を設置したことや、長い期間、歩道が敷化していた中岳から剣岳間の敷刈りを河辺山歩会を中心に行い、歩道整備も進んでいたことから、皆で登ろうと、役員会・総会で承認された。

また、本会山行委員会が太平山登山を計画していたことから、それでは山頂で交流会を、その日程に合わせて、七月十三日、十四日と決定した。

天気予報には惑わされた。私は迷いに迷って、長距離の中岳コースを諦め、旭又往復に変更した。

旭又から登り始めたころから天気は回復し、皆さんが山頂に到着する頃は青空も現れ、日本海を染める夕日も鑑賞できて嬉しかった。

三浦真六委員が、純米酒を二本背負って奥岳参籠所に届けられていたのはビックリ。堀井弘副支部長から手作りの太平山案内地図やビールを頂き、両氏に感謝致します。

参加者の皆さんのご協力で事故なく無事に「六十周年記念山行・太平山集中登山」を終えたことに感謝致します。留守本部の柴田勸監事ありがとうございました。

山行委員会の翌日の秋田駒ヶ岳登山は今野昌雄顧問が案内しました。

### 金山滝から奥岳へ 熊谷光子

金山滝登山口から奥岳コース。三十分数年ぶりに頂上泊登山です。  
七月十三日(土)

朝方まで雨が降っており、濡れても仕方ないと傘をさして登ることに決め、自宅を出た。

登山口の東屋には鎌田さんが待っており、東屋には、山ヒル予防石灰が巻かれていた。

出発する九時頃には雨もあがり、昔を思い出しながら登る。中岳で昼食・休憩していると二手ノ又コースから登ってきた藤田さんと合流。三人で奥岳を目指す。

若いころ女友達と二人で中岳の神社に泊まり、奥岳まで二時間で着いた記憶がある。今回は、中岳から鶴ヶ岳を廻りこむ辺りまでは綺麗に下刈りされており、歩きやすかったが、ここから大変な目に合う。膝まで伸びたシダに水滴がつき、登山靴はビチョビチョとなり、大変歩きにくく、足元が見えず、つまずいたり、転んだり、悪戦苦闘しながら頑張った。

野田コースの分岐に着いた頃から歩道はよく整備されておりほっとした。弟子還の岩場も手に力が入りにくく、靴に泥がついて登りにくく、最後の力を振り絞って頂上には十五時に着いた。濡れた衣服をストープで乾かす。何より冷えたビールが美味しかった。

山行委員会の一行十二名が到着する十七時頃には晴れ上がり、夕焼けが日本海を染めて美しかった。

参籠所で、鈴木支部長が六十周年記念集中登山の折に、「おらほの山・太平山へようこそ」と歓迎の言葉を述べ、秋田支部差し入れの缶ビールで、下河邊山行委員長長の乾杯があり、交流会は始まった。差し入れの日本酒に酔い、話は弾み、夜景を楽しむ。

七月十四日(日)

早朝、神社で行う朝拝に参加させて頂き、清々しい気分。空も晴れ上がり、雨上がりの木々が美しい。

朝食を済ませ、旭又へ下山する皆さんを見送り、六時四十五分、前日のコースを下る。歩道の刈り払いを終えた剣岳を経由して、十五時三十分、金山滝登山口へ着いた。



早朝の太平山奥岳一等三角点の前で

中岳コースから奥岳へ  
石川祐子

私たち三人は残念ながら宿泊断念組だが、中岳を経由し奥岳へ向かってみたいという気持ちは同じだ。結果、石川車を旭又にデポ後、川口車で移動、会員外の鈴木茂夫さんと二手の又で合流して七時に登山開始する。

自宅出発五時には霧雨だったのが準備を始めた途端本降りになるという皮肉。この年齢になると天気予報を見ながら登山日を決めがちで、雨具はザツクの肥やしになることが多いからすぐには気分が乗らない。疲労がたまるなようにジワジワと登っていく。出発時におにぎりを一個食べて良かった。体力がなければ食べて食べなければ！

第一目標中岳、第二目標宝蔵分岐を設定する。三角井戸の前に雨もようやく止み、中岳では長めの休憩をとる事で気分転換した。



山頂で記念写真

野田分岐までは七分分した標柱が建てられていたが、一番を除いて殆ど倒れていた。熊害なのか壊れていた。それにしてもこの長く歩きづらいた登山道を地道に下り続けてくれた方たちの苦勞をこの伸び放題の草たちは全く分かっていないのだ。濡れネズミの雨具は露払いには最適だ。少しは後から来る人の役に立ったかな。二度のアクシデントを越えて漸く奥岳に辿りついたのは十三時十五分だった。

一時間程休み、支部長と記念撮影した後、旭又へと下山をスタートさせた。

旭又から奥岳へ  
安藤金栄

秋田支部設立六十周年を祝い「おらほの山・太平山」の山頂にある太平山三吉神社奥宮を目指し、中岳、旭又の各コースから集中登山が行われた。

私と佐藤委員の役目は、本会山行委員会が企画した太平山への登山者を旭又から奥岳への案内一泊登山である。

七月十三日(土)

早朝の雨は止んだが、まだどんよりとした曇り空。車もまばらな旭又駐車場、一行を乗せたマイクロボスに支部旗を掲げ歓迎する。

五十代から八十代の老若男女十二名の参加。堀井副支部長手製の太平山の案内図を配布。太平山は初めての人が殆どであった。雨が降らないように願いながら準備を整え、十三時出発。平坦な道すがら鬱蒼とした林にドク

ダミの花の白さがやけに映える。宝蔵岳コースへの登山口、インクラインとは、の標識に皆注視する。まもなく御滝神社着。ここからの急登を告げる。無線で中岳コースと交信するが苦戦をしているようだ。

花の終わったアヤメ坂付近では、隊列が乱れ、休憩ポイント配分。ペースが読みづらい。ブナに白い碍子があるのを見つけ、かつて電話が引かれていたことを佐藤委員が説明。

曇り空のもと、薄暗いブナ林に霧が立ち込めている。我々には見慣れた風景だが、静寂に包まれた神秘的な世界に一行から感動の声が上がり、しばし歩みを止め立ち止まる。

十五時二十分頃、御手洗着。休憩。

ここからあと一時間位と励ますが、ザックより体が重いとなかなか前に進めない。ようやく「七曲」の標識が現れ、萩形の分岐、鐘つきを経て風も爽やかな稜線に出る。奥岳頂上の参籠所を仰ぎ、皆感嘆の声をあげる。最後の辛い斜面を登り切り、一等三角点にタッチ。市街が薄っすらと見えていた。夕食はカレー、三浦さん差し入れの高級清酒を皆で楽しませてもらった。



山頂に咲いていた  
コアニチドリ

七月十四日(日)  
清々しい朝を迎え、ご来光を仰ぐ。朝明けの空に鳥海山、秋田駒ヶ岳、岩木山のシルエツトが美しい。神社で朝拜が行われ、代表が玉串を奉納。このような機会はめったにないと思っていた。

六時三十分下山開始。下りは特に慎重に「を合言葉にして下る。途中、奥宮に奉納する子供会の梵天ともすれ違ひ大喜びしていた。太平山を充分に楽しんだと思う。



旭又駐車場十時着。ザブーンで入浴・昼食を済ませ、秋田駅に向かうバスから手を振る姿に、怪我も事故もなく終えホッとしている。又来てくださーい！

宿泊参加者

- ・中岳コース 往復 鎌田倫夫 熊谷光子 藤田正義
- ・旭又コース 往復 鈴木裕子 若月寿 佐藤博

日帰り参加者

- ・中岳コースから奥岳・旭又へ下山 川口廣志 石川祐子
- ・会員外 鈴木茂夫
- ・中岳コース往復 歩仁内昌樹
- ・旭又コース往復 三浦眞六
- 留守本部 柴田勲

# 追悼 寺田新一氏を偲んで 佐々木民秀

## 寺田新一氏

昭和十六年八月二十八日  
 平成十年五月 日本山岳会入会  
 紹介者 岡田光行氏 長岩嘉悦氏  
 平成三十年十一月七日逝去  
 享年七十七歳



品格のある顎ひげを生やし、小柄な体から冗談交じりの言葉を大声で話す寺田新一さんのご逝去を慰紙上で知った。

支部総会には、毎年和服を着て元気な姿で出席され、相変わらずの力強い笑い声を響かせていただけに、俄かには信じがたい心境でもあった。

横手市の由緒ある正平寺で葬儀が行われ、鈴木支部長と共に参列してご冥福をお祈りした。

寺田さんは平成十年五月に、長岩名誉顧問の紹介で入会され、翌年実施し

た支部山行・韓国の一漢拵山・俗離山親善登山で一緒したのが初めて共にした山行であった。

以後、韓国との交流登山では毎回参加され、大いに韓国岳人との交流を盛り上げていただいた。

寺田さんは、交流登山後も常に韓国ソウルに滞在し、趣味(甲冑)の小道具店巡りをするなど、大の韓国好きでもあった。

あの小柄な髭顔で、明洞街を闊歩する姿が今でも目に浮かぶ。

また、特にお世話になったことは、本会百周年記念事業の中央水嶺踏査登山で大にお力添えをいただいた。

須川温泉から大薊岳へ上鉢山間の分水嶺では、伊藤秀雄会員(故人)と鈴木裕子会員との三人で実施したが、雪消えが早く、予想以上に敷漕ぎが長くなり、上鉢山まで辿り着いたものの、その先の桑原岳経由での下山は時間的に難しく、岩手側の急な尾根を降りたものの、真つ暗で林道終点に辿り着けず、ビバーク。そして翌朝、林道分岐まで迎えに来てくれた寺田さんと合流。昨夜は遅くまで待ち続け、今朝また迎えに来たというハプニングや、割倉山南方の高速道路から浮島北方間では長靴を忘れ、ズックにカンジキを履いて雪降る中を柴田勸会員と縦走し、途中で寺田さんに連絡し、代替えの長靴を国道の分水嶺近くまで持って来ていただいたなど、親身になって踏査成功に導い

てくださったことなどは忘れることは出来ない。改めて感謝の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

今頃は、親交のあった先に逝った韓国岳人と彼の山で、あの大きな声で山談義を楽しんでいるのかもしれない。

(合掌)



韓国・俗離山にて 寺田さん

## 寺田さんを思う 鈴木裕子

横手弁で大声で話す、お酒落で着物姿で総会に出席する、オールカカーを乗り回す、等々、豪快な方だった。

愛妻家で、奥さんの愛子さんを秋田美人だと威張っていた。

「お前どだは比べ物にならね。」と言われ笑ったが、一目会って見たいと物件を作り訪ねたら、正に、見た目も人柄も秋田美人、美味しいガッコ茶で歓待された時の寺田さんの笑顔が思い出される。

(合掌)

## 訃報

### 大山孝一氏

No.五六三二 永年会員  
 病氣療養中のところ、  
 平成三十一年四月二十九日逝去  
 (享年八十六才)

謹んでお悔やみ申し上げます  
 これまでの支部運営のご協力に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします



大山孝一氏の逝去については、慰紙上のお悔やみ欄に掲載されておらず、「会報・山七月号」の物故者欄に載っているのを見つけ、ご遺族に連絡し、確認いたしました。

ご遺族は、弔問、弔電、献花等をご辞退なされました。

### 大山孝一氏

昭和八年一月二日生  
 昭和三十八年九月 日本山岳会入会  
 会員No.五六三二

紹介者 荒巻廣政氏 柴田均二氏  
 昭和四十四年度〜四十六年  
 秋田支部監事  
 平成二十五年十二月 永年会員。



八月十一日「山の日」登山「明田富士山」

鈴木裕子

東通明田町内会子供会の「明田富士山（三五五）登山が、山の日（八月十一日）に行われると聞き、参加させて頂いた。

午前十時三十分、磯前神社隣地にある町内会館に集合。町内会長さんの挨拶の後、準備体操をして登山口に向かった。幼稚園児から小学生、同伴の父兄併せて四十名程。

登山口の鳥居をくぐり、階段を登り、整備された階段状の歩道を七、八分程登ると、平成元年に「秋田支部設立三〇周年記念」に設置した「日本一低い富士山」の標柱と「富士権現」の石碑のある山頂広場に到着。

到着した山頂で三々五々、自然観察やかけっこをして遊んでから、集まった子供たちに「今日は、山の日、明田富士山登山に皆さんと一緒に参加できて嬉しい、元気で楽しい夏休みを過ごしてください」と挨拶をした。

佐々木顧問からは、明田富士山と日本山岳会との関わり合いを説明、そして「昔はもっと大きな山であったが、久保田藩城下町を造る為に山が削られて、今のようになった。山頂広場は今よりも四倍くらい広い山だった。大きくなったら一番険しい尾根道を登ってみてください。そして山ガール、山ボーイになってください」との話をした。子供たちは、クイズ大会やゲームの後、無事に下山した。



支部からは「山のマナーノート」や「山の日」パンフレット、「会報」等を配布して喜んでいただいた。私たちは、支部設立四十周年に植樹した桜の木（故鈴木幸雄氏贈）の標柱の建て替え相談等、打ち合わせをしてから下山。標柱の建て替えは九月下旬を予定。多くの会員の参加を期待している。

参加者  
 佐々木民秀 鈴木裕子 鎌田倫夫  
 佐藤博 三浦昭男

会務報告

◎本会通常総会

令和元年六月二十二日（土）午後二時から千代田区主婦会館プラザエフで開催。  
 鈴木裕子支部長出席  
 （会報「山」七月号参照）

総会終了後の懇親会では、新会長の心強い新任の挨拶があった。総務委員の方々、他支部の方々との交流を深め、東北支部の方々に六十周年記念祝賀会でお待ちしていると挨拶をかわした。

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十一日、午後一時三十分からイヤタカで開催。  
 平成三十年度の事業報告、決算の承認、平成三十一年度の事業案、予算等を審議

支部関係出席者 今野昌雄 高橋守  
 後藤浩二

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十七日、六時三十分から赤沼・三吉神社で開催。八団体十三名出席。平成三十年度の事業報告、決算の承認、平成三十一年度の事業案、予算等を審議

太平山登山道整備等での協力の依頼。太平山遭難対策について、消防や警察との関連についての意見があったが、警察からの依頼があった場合に活動するとの話し合いであった。

支部関係出席者 佐々木民秀  
 鈴木裕子 堀井弘 佐藤博

事務報告

◎事務局会議

◎七月三日、午後一時から鈴木宅  
 ・集中登山打ち合わせ  
 ・六十周年祝賀会出席者の確認  
 ・会報百十二号、支部だより十七号の発送袋詰め

◎八月三日、午後一時から鈴木宅。  
 ・六十周年祝賀会等の打ち合わせ  
 ・参加者の確認等。  
 ・鶴の湯温泉現地打ち合わせの確認。

◎八月二十七日、午後一時から鈴木宅。  
 ・六十周年祝賀会等の打ち合わせ。  
 参加者の最終確認  
 部屋割り、懇親会席順  
 プログラムの原案等

・タイムスケジュールおよび役割分担  
 参加者の配車等  
 ・役員会の打ち合わせ。  
 ・役員改選の件

事務局会議出席者

鈴木裕子 鎌田倫夫 石川祐子

◎現地確認

◎八月十日、午後一時から鶴の湯温泉  
 ・六十周年祝賀会等の打ち合わせ  
 部屋割り、祝賀会の会場、懇親会会場配膳、駐車場の確認等  
 ・講演者依頼の件  
 ・翌日の朝食、弁当の手配等他

出席者 鈴木裕子 佐藤和志  
 鎌田倫夫 石川祐子

鶴の湯温泉鈴木支配人